

7. クモ・多足類

(1) 調査概要

1) 調査方法

過去 50 年間の現地調査と R L 2004 作成のための調査ならびに R D B 2009、R L 2014、および R D B 2019 作成のために行った現地補充調査の結果をもとに絶滅のおそれのある種を選定した。

2) 産地情報の採用基準

過去 50 年間の現地調査の結果（信頼度の高い文献情報）と今回の R D B 2019 に関わる現地補充調査の結果を採用した。

3) 調査結果の概要

森林（林床、崖地）、洞窟、地中、海浜などの特殊な環境を生息地とする地表性クモとヤスデ類を中心に調査した。県内のクモ類は 45 科 460 種、ヤスデ類は 7 目 17 科約 50 種である。選定したクモ・多足類は、蛛形綱（クモ形綱・クモ綱）クモ目と、倍脚綱（ヤスデ綱）ジヤスデ目、ヒラタヤスデ目、イメヤスデ目、オビヤスデ目に属する種である。熊本県特産のイツキメナシナミハグモやカワベナミハグモは、県内における生息域も限られ、環境悪化で減少の危険度が大きいことから選定した。一方、R L 2014 において選定していたタカサワナミハグモ、ニチコウナミハグモ、フウジンナミハグモの 3 種は、その後の調査で県内の多くの地域で確認されたことから除外した。キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、ワスレナグモの 3 種は、県内における確実な生息地が限られ、分布記録が非常に少ないため選定した。同様に、海岸に生息するヤマトウシオグモも近年の記録が少ないことから、情報不足 (DD) として選定した。

倍脚綱（ヤスデ綱）については、オビヤスデ目ノコギリヤスデ類、ヒメヤスデ目ネンジュヤスデなどについて調査するとともに、林床に生息するジヤスデ目オカツクシヤスデやヒラタヤスデ目ヤマシナヒラタヤスデなど、県内の生息域が限定される種を中心に調査した。特に 50 年ぶりに生息が確認され、県内以外から記録がないヤマシナヒラタヤスデの生息状況は、2016 年の熊本地震後に確認できていないため注意を要する。

4) R L 2014 との比較

キムラグモ類は、森林の林床（リター）や崖地に生息する。県内にはヒゴキムラグモとブンゴキムラグモの 2 種が記録されている。両種とも分布は広く、生息個体数もかなり多く、R L 2014 では準絶滅危惧 (NT) に選定した。しかしながら、2016 年の熊本地震による生息地の斜面崩壊の影響などの生息環境の悪化により震災前に比べて激減している地域が多く、今後、個体数の推移を見守ることが重要である。

5) 今後の課題

蛛形綱（クモ形綱・クモ綱）ザトウムシ目についても、県内からマザトウムシ科のゴホントゲザトウムシ *Himalphalangium spinulatum* (Roewer, 1911)、ブラシザトウムシ科のフセブラシザトウムシ *Sabacon distinctus* Suzuki, 1974 やカワザトウムシ科のヒトハリザトウムシ *Psathyropus tenuipes* L. Koch, 1878 の 3 種の希少種が報告されていることから、今後、詳細に生息状況を解明していきたい。

(2) 種の解説

絶滅危惧 I A 類 (CR) から情報不足 (DD) までの、それぞれのカテゴリーに位置づけた 13 種について、以下に解説する。

絶滅危惧 I A 類 (CR)

イツキメナシナミハグモ

Cybaeus itsukiensis Irie 1998

ナミハグモ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 県特産、模式産地、地域的孤立・希少

生息環境 洞窟

生息状況 生息が確認されているのは、九折瀬洞（五木村）のみである。

生存への脅威 洞窟内環境変化

特記事項 眼の退化したクモである。



撮影：入江照雄

絶滅危惧 I B 類 (EN)

カワベナミハグモ

Cybaeus kawabensis Irie & Ono 2002

ナミハグモ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I B 類 (EN)

環境省カテゴリー

選定理由 県特産、模式産地、地域的孤立・希少

生息環境 森林内の石の下

生息状況 生息が確認されているのは五木村、相良村の一部のみである。

生存への脅威 土地造成、森林伐採

特記事項 模式産地は相良村である。



撮影：谷川明男

準絶滅危惧 (NT)

キムラグモ類

Heptathela spp.

ハラフシグモ科

熊本県カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、地域的孤立・希少

生息環境 キシノウエトタテグモに似て、森林や崖地に片開きの扉をもつ住居に生息

生息状況 キムラグモ類は、熊本県と鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県（北限）の一部に広く生息する。県内には、ヒゴキムラグモ *Heptathela higoensis* Haupt 1983、ブンゴキムラグモ *Heptathela kikuyai* Ono 1998 が生息する。2016年4月の熊本地震により、生息地の斜面が崩壊した影響などで一部地域で減少している。

生存への脅威 森林伐採、土地造成、農地開発

特記事項 生息地における震災復旧工事の際には、配慮が必要である。



撮影：入江照雄

ワスレナグモ

Calommata signata Karsch1879

ジグモ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少

生息環境 草原や芝生の地中に縦に管状の住居をつくる

生息状況 現在までに確認されている生息地は、南関町、玉名市、山鹿市、宇城市（三角町）、天草市、美里町などである。

生存への脅威 土地造成、草地の開発

特記事項



撮影：入江照雄

キノボリトタテグモ

Conothele fragaria (Dönitz 1887)

トタテグモ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少

生息環境 岩の壁面や古木の樹皮上に3cmほどの住居をつくる

生息状況 県内でも生息場所は少ない。古木の周辺の乾燥などで影響を受けるようである。

生存への脅威 森林伐採、土地造成

特記事項



撮影：村田浩平

キシノウエトタテグモ

Latouchia typica (Kishida 1913)

トタテグモ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 キムラグモ類に似て、森林や崖地に、片開きの扉をもつ住居に生息

生息状況 本州、四国、九州に分布するが、県内では水俣市と天草市で生息を確認しているのみである。

生存への脅威 森林伐採、土地造成

特記事項



撮影：入江照雄

情報不足 (DD)

ヤマトウシオグモ

Desis japonica Yaginuma 1956

ウシオグモ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 全国局限、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 岩石海岸やサンゴ礁の潮干帯にすみ、岩の隙間に住居をつくり、満潮時には住居は海中に没する。

生息状況 1963年、天草市牛深町での記録がある。過去に苓北町での情報もある。

生存への脅威 その他（岩石海岸の埋立、改修、開発）

特記事項

ドウシグモ

Asceua japonica (Bösenberg & Strand 1906)

ホウシグモ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 全国局限、特殊生息生育環境

生息環境 神社や寺院の古木に生息

生息状況 生息環境の悪化で減少傾向にある。現在までの生息確認は大津町（北向山）、小国町、五木村、美里町での記録がある。

生存への脅威 その他（古木伐採）

特記事項



撮影：山崎茂幸

オカツクシヤステ

Kiusiozonium okai (Takakuwa and Miyosi, 1949)

イトヤステ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 湿度の十分な森林内や林縁部の倒木や朽木の下に生息、菌食

生息状況 県内の生息地は限定される。今後も生息状況のモニタリングが必要である。

生存への脅威 森林伐採、その他（温暖化等による林内の乾燥など）

特記事項

ヤマシナヒラタヤスデ

Yamasinaium noduligerum Verhoeff, 1939

ヒラタヤスデ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

- 選定理由** 特殊生息生育環境、その他（発見例が少ない）
- 生息環境** 雑木林やスギ林などで発見されているが、詳しい生息環境は不明
- 生息状況** 県内山間部
- 生存への脅威** 森林伐採、その他（温暖化等による林内の乾燥など）
- 特記事項**



撮影：免田隆大

ヤマリュウガヤスデ

Skleroprotopus montanus Takakuwa, 1942

ホタルヤスデ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

- 選定理由** 全国局限、特殊生息生育環境
- 生息環境** 阿蘇火口周辺の二次林など
- 生息状況** 県外では記録がなく、県内では阿蘇市仙酔峡からのみ記録あり、固有種の可能性がある。
- 生存への脅威** 森林伐採、その他（温暖化等による林内の乾燥など）
- 特記事項**



撮影：免田隆大

ネンジュヤスデ

Sinostemmiulus japonicas Murakami, 1980

カザアナヤスデ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

- 選定理由** 特殊生息生育環境
- 生息環境** 林内の落葉土中など
- 生息状況** 県内では、球磨郡の広葉樹林と洞窟において採集された2例以外には記録がない。
- 生存への脅威** 森林伐採、その他（温暖化等による林内の乾燥など）
- 特記事項**

ノコギリヤステ類

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

Prionomatis spp.

オビヤステ科

選定理由 全国局限、特殊生息生育環境

生息環境 洞窟性種が多く、生息数は非常に少ない

生息状況 県内には、アライノコギリヤステ *Prionomatis araii* (右図) などが生息する。本種は、立野地区や菊水町などでも近年、確認されているが、ダム開発などにより生息地が水没した。

生存への脅威 ダム工事

特記事項



撮影：入江照雄

(3) 文献

1. 青木淳一 (2015) 日本産土壌動物 (第二版). 東海大学出版部. 1969pp.
2. 千国安之輔 (1989) 写真・日本クモ類大図鑑. 偕成社. 308pp.
3. 入江照雄 (1997) 洞窟に魅せられて 35 年—暗闇に生きる動物たち—. 熊本生物研究所. 324pp.
4. Irie, T. (1998) A new eyeless spider of the genus *Cybaeus* (Araneae : Cybaeidae) found in a limestone cave of Kyushu, Japan. *Acta Arachnol.* 47 : 97–100.
5. 入江照雄 (2007) 熊本のキムラゴモ類. 続・暗闇に生きる動物たち. 26-46. 熊本生物研究所.
6. Irie, T. and Ono, H (2002) A new species of the genus *Cybaeus* (Araneae : Cybaeidae) from Kumamoto Prefecture, Japan, with a description of the male *Cybaeus uenoi*. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 28 : 123–127.
7. Irie, T. and Ono, H (2008) A new species of the *Pholcus* (Araneae, Pholidae) from Kumamoto Prefecture, Kyushu, Japan. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 2 : 95–98.
8. Komatsu, T. (1968) Two new species of genera *Tetrablemma* (Tetrablemmidae, Oonopidae) and *Dolichocybaeus* (Cybaeinae). *Acta Arachnol.*, 21 : 35–39.
9. Komatsu, T. (1968) Cave spiders of Japan. II. *Cybaeus*, *Dolichocybaeus* and *Heterocybaeus* (Cybaeinae). *Arachnological Society of East Asia*, Osaka. 38pp.
10. Ono, H. (1998) Spiders of the genus *Heptathela* (Araneae, Liphistiidae) from Kyushu, Japan. *Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, (30) : 13–27.
11. 小野展嗣 (2009) 日本産クモ類. 東海大学出版会. 738pp.
12. 高桑良興・高島春雄 (1949) 華北山西省産多足類. 蜘蛛学雑誌, 11 : 51–70.
13. 谷川明男 (2018) 日本産クモ類目録. (Ver.2018R2. [http://www.asahi-net.or.jp/~ dp7a-tnkw/japan.pdf](http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf)).
14. 八木沼健夫 (1986) 原色日本クモ類図鑑. 保育社. 305pp.